

ESDのすゝめ

所沢市版 ESD 実践の手引き



平成30年3月

所沢市立教育センター

ESD（持続可能な開発のための教育）調査研究協議会

目 次

1	ESDとは	・ ・ ・ ・ ・	P 1
2	ESDの必要性	・ ・ ・ ・ ・	P 1
3	持続可能な社会の創り手を育てるためには	・ ・ ・ ・ ・	P 2
4	所沢市のESD（本市における特徴的な取組）	・ ・ ・ ・	P 4
	コラム『レバレッジ・ポイント』	・ ・ ・ ・ ・	P 4
	(1) つながりへの気づき	・ ・ ・ ・ ・	P 5
	(2) 永続的な問い	・ ・ ・ ・ ・	P 6
	(3) 深いふりかえり	・ ・ ・ ・ ・	P 7
5	平成29年度の授業実践	・ ・ ・ ・ ・	P 9
	中学校2年生 道徳科		
	「天使の声」 彩の国の道徳『心の絆』より		
	コラム『しあわせの王子』	・ ・ ・ ・ ・	P 11
	「ESD、持続可能な未来に向かう学び」のうた	・ ・ ・ ・ ・	P 12

平成29年度 ESD 調査研究協議会委員

南小学校	校長	山本 直子（委員長）
明峰小学校	教頭	佐藤 佳岳（副委員長）
牛沼小学校	教諭	岸 雄太郎
椿峰小学校	教諭	野島 苗未
宮前小学校	教諭	木下 智実
美原中学校	教諭	菅原 久寿
北野中学校	教諭	山口 翠

指導者

東京学芸大学

特命教授 成田 喜一郎



※ この冊子の中の挿絵は、美原中学校・北野中学校の美術部の生徒さんの作品です。

1 ESDとは

Education for Sustainable Development の略で、「持続可能な開発のための教育」と訳され

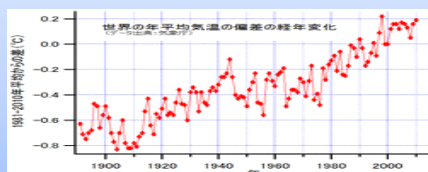
持続可能な社会を創造し続けるための
価値観や行動を生み出す学習や活動

を推進する教育です。

2 ESDの必要性

【将来の変化を予測することが困難な時代】

少子高齢化、環境、貧困、人権、平和、開発等の問題



【小・中学校学習指導要領前文から抜粋】

一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする



【持続可能な社会の創り手を育む教育】



「持続可能な社会の創り手を育む」という目標に向かって、「分化された教育」（左図参照）が統合され、位置づけられ、知識・価値観・行動等が育成される教育のこと

すなわち

・課題を見つけ、課題の解決に向けた主体的・協働的探究を通して、学びの成果を実践に活かし行動する。

学校では

【全教育活動での取組】

地域、児童生徒の実態に応じて、重点的に取り組む領域を設定し、全教育活動でESDに取り組む。

3 持続可能な社会の創り手を育てるために

全教育活動で、「ESDの視点に立った能力・態度」⇒「持続可能な社会づくりの概念」が育つことによって、「持続可能な社会の創り手が育つ」と考えます。



持続可能な社会の創り手

行動できる

概念が育ち

国際理解教育や環境教育などの内容ではなく、学ぶ過程で育つ能力・態度・概念に重点を置きます

③ ② ①
有限の資源と限界 相互な関わり合い 多種多様な成り立ち

⑥ ⑤ ④
責任をもつて変革 連携協力 公平公正

防災学習

環境学習

国際理解教育

エネルギー教育

A つながり
を尊重する態度

B 多面的・総合的
に考える力

C 否定ではない
反論をする力

D 未来を予測し
計画する力

E コミュニケー
ションを行う力

F 進んで参加
する態度

G 他者と協力
する態度

全教育活動で能力・態度の育成

知識・技能の習得

思考力・判断力・表現力

学びに向かう力
人間性の涵養

何ができるようになるか

何を学ぶか

【学習内容】教科内容

どのように学ぶか

【アクティブ・ラーニング】
主体的・対話的で深い学び

所沢市では つながりへの気づき₂ 永続的な問い 深いふりかえり

所沢のESDで育む概念／能力・態度¹

概念

構成概念		行動	概念を育てる学習内容例
人を取り巻く環境に関する概念	①多様性	違いや特色を大切にする	・それぞれの地域には、地形や気象などに特色があること ・体に必要な栄養素には、いろいろな種類があること
	②相互性	ものも人も、みんなつながっている	・生物は、その周辺の環境とかかわって生きていること ・食料の中には外国から輸入しているものがあること
	③有限性	ものを大切にする	・物が水に溶ける量には限界があること ・物や金銭の計画的な使い方を考えること
人の意志や行動に関する概念	④公平性	友だちや自分を大切にする	・健康でいられるよう食事・運動・睡眠などが保障されていること ・差別をすることなく、公正・公平を努めること
	⑤連携性	友だちと工夫し、協力する	・地域の人々が協力して、災害の防止に努めていること ・謙虚な心を持ち、自分と異なる意見や立場を大切にする
	⑥責任制	責任をもって行動する	・働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと ・家庭で自分の分担する仕事ができること

能力・態度

能力・態度	言葉(O)や行動(◇)	ESDで重視する態度や能力例
Aつながりを尊重する態度	◇つながりに関心をもつ。 ◇つながりを大切にしようとする。	・自分が様々なものとつながっていることに関心をもつ。 ・いろいろなもののお陰で自分がいることを実感する。
B多面的・総合的に考える力	O違う見方はないかな。 Oまとめて考えると、どうなるかな。	・廃棄物も見方によっては資源になると捉えることができる。 ・様々な物事を関連付けて考える。
C否定ではない反論をする力	Oこういう場合は、どう考えるの？ Oそう考えると、こうになってしまうよ。	・否定をせず、相手が納得できる根拠や文脈を提示する。 ・積極的・発展的によりよい解決策を考える。
D未来を予測して計画を立てる力	Oこのあと、どうなるかな。 Oそのためどうしておこうかな。	・見通しや目的意識をもって計画を立てる。 ・他者がどのように受け取るかを想像しながら計画を立てる。
Eコミュニケーションを行う力	O友だちは、なぜそう考えたのかな。 O友だちの考えを取り入れて、自分の考えを深めよう。	・他者の言動の根拠や文脈、背景を読み取ろうとする。 ・他者の意見を取り入れ、自分や集団の考えをよりよくしようとする。
F進んで参加する態度	◇約束を守る。 ◇進んで友だちのために行動する。	・自分の言ったことに責任をもち、約束を守る。 ・進んで他者のために行動する。
G他者と協力する態度	◇友だちの考えに共感する。 ◇励ましながらチームで活動する。	・相手の立場を考えて行動する。 ・仲間を励ましながらチームで活動する。

¹ 角屋重樹（研究代表者） 学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究 P.6
国立教育政策研究所 平成24年3月 を参考に作成

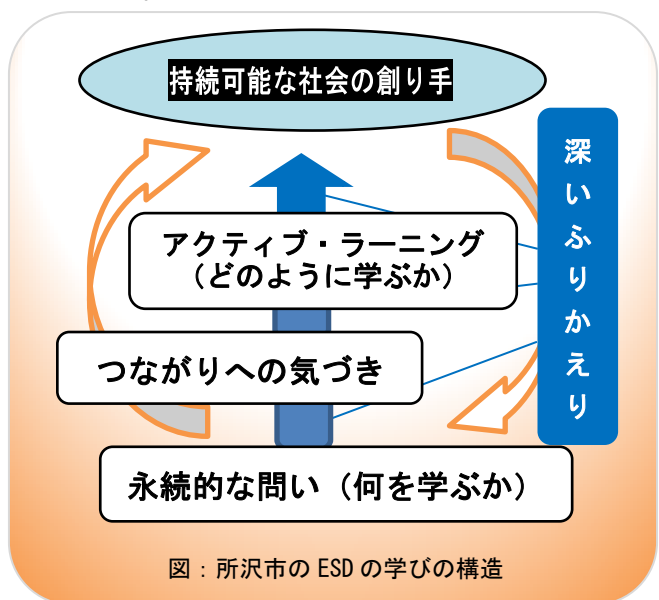
4 所沢市のESD（本市における特徴的な取組）

所沢市では、平成22年度から8年間、東京学芸大学の成田喜一郎氏を指導者に招聘し、具体的な取組や概念について調査・研究し、それに基づいて授業研究を進め、学校への提言を行ってきました。中心となるのは、

「つながりへの気づき」・「永続的な問い」・「深いふりかえり」

の3つの手立てです。ESDの概念はその難しさから、いざ授業を実践しようと思っても、どこから手をつけていけば良いのか、悩んでしまうことがあります。そこで、「つながりへの気づき」・「永続的な問い」・「深いふりかえり」という視点・手立てを入れることにより、ESDの実践が、「課題解決的な学習」や「アクティブ・ラーニング」へとつながり、さらに持続可能な社会の創り手となるための概念を醸成するような学習となっていきます。

「つながりへの気づき」・「永続的な問い」は、「単元づくり」や「学びを進める」上でベースとなるものであり、「深いふりかえり」はそれを中心で支えるものです。また、「深いふりかえり」は、「つながりへの気づき」・「永続的な問い」が適切・明確であったかどうかの指標になり、その後の実践が、拡がりをもったものになっていきます。それらの関係を図示すると右図のようになります。



図：所沢市のESDの学びの構造

コラム『レバレッジ・ポイント』

今、国連では、世界を変えるための17分野、169個の「持続可能な開発目標」を掲げています。1つずつは重く難しい課題で、たとえば、その1つに、「2030年までに、全てのこどもが、無償で公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする」があります。しかし、このような途方もなく高い目標を、しかも169個も、2030年までに達成できるのでしょうか。

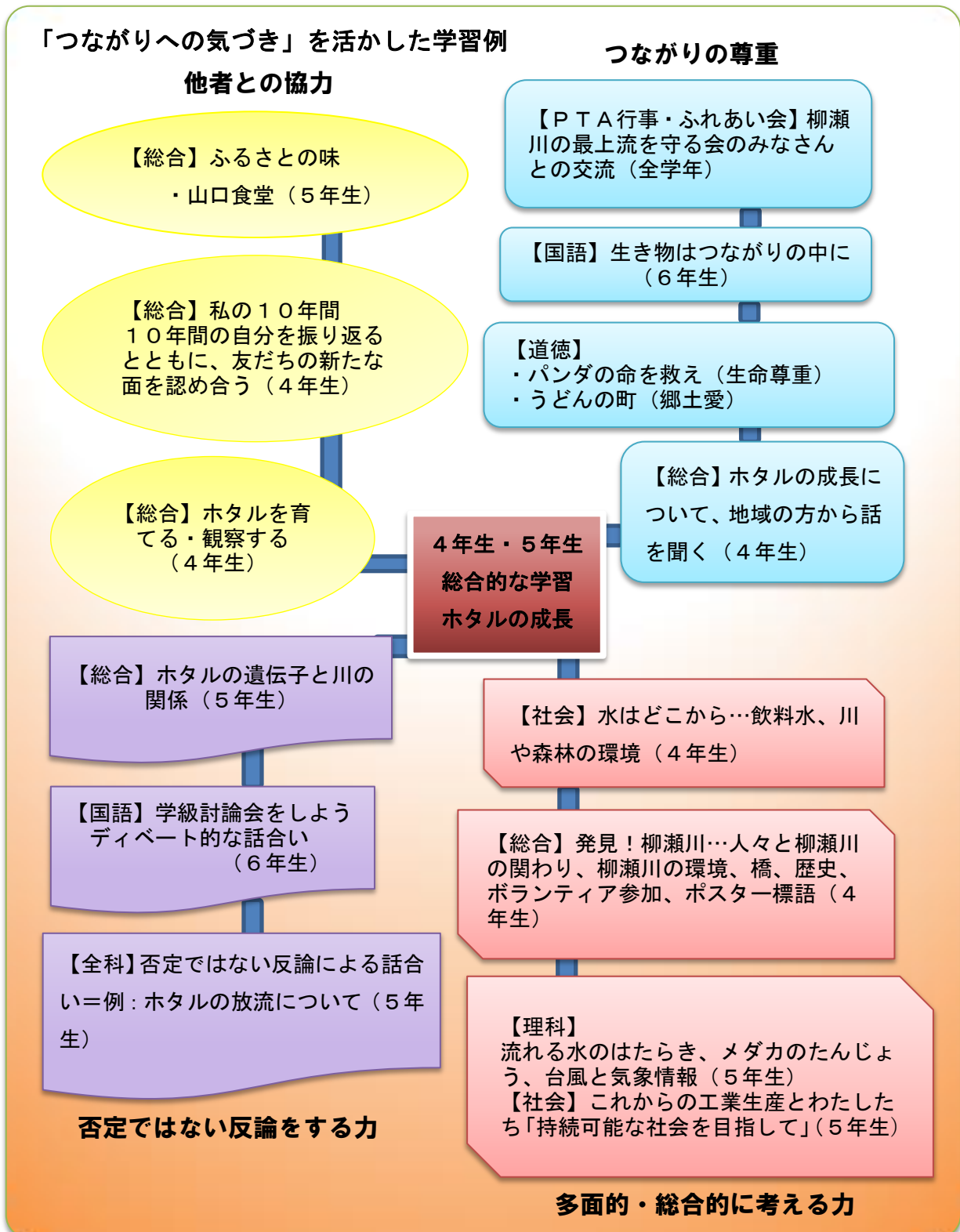


その方策として今注目されているのが、「レバレッジ・ポイント」というものです。一見関係なさそうな「ある方法」が、多くのことに影響を及ぼす…解決策の「結び目」のようなものです。たとえば、開発途上国における「学校給食」は、一つの「レバレッジ・ポイント」です。給食は、子どもの飢餓と栄養状態を改善するだけでなく、登校によって児童労働の撤廃、知識やスキルの獲得、貧困層の減少、治安の改善、経済成長等さまざまな成果につながるのです。

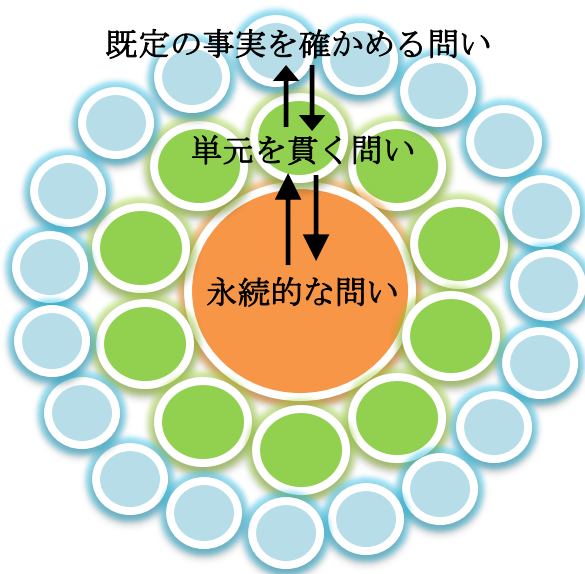
ESDは、その「レバレッジ・ポイント」なのかもしれません。持続可能という観点でさまざまな教科や単元を見ると、自ずとその到達する姿が見えてくるような気がします。

(1) つながりへの気づき

「つながりへの気づき」とは、内容・時間・空間など、バラバラになりがちな教材の価値の「つながり」に気づき、それらを拡げ、深めながら進めていく学習観のことです。環境とのつながり、心と体のつながり、教科のつながり、人と人のつながり、過去・現在・未来とのつながりなど、さまざまな「つながり」を意識し、総合的、包括的に学習を進めていきます。



(2) 永続的な問い



【永続的な問いとは】²

持続発展的な価値を育んだり、既存の価値観の変革を促したりする問い。さらには行動に結び付く問いのこと。



正解は1つではなく、問いを受けとめ、自分なりの答えを探しながら生きていく。

「永続的な問い」と「それによって形成される資質や価値観」の例



Q：本当の豊かさや幸せって何？

A：世界各地にいるそれぞれの子どもはそれぞれの幸せを感じている。日本の価値観だけでは測れないよね。(多様性)



Q：人が環境を守るということはどういうことだろう？

A：環境を守るためには、川をきれいにするとか、ゴミを出さないとかいうことだけでなく様々な人が意見を出し合い、合意をしていくことが必要な。(連携性)



Q：あなたは何を大切に生きていきたい？

A：健康、愛、家族、正義、富…自分とは違う色々な考えがある。自分の意見を伝え、人の意見を聞くことは大事だね。(コミュニケーションを行う力)



持続可能な社会の創り手としてふさわしい資質や価値を養うには、「永続的な問い」を意識して学びを進めていくことが重要です。

²成田喜一郎 (2009) 「ESDへのアプローチ」『ESD教材ガイド：持続可能な未来への希望』P108
ユネスコアジア文化センター

(3) 深いふりかえり

【創作叙事詩】

直観で書くもの（漢字1字、キ
ャッチフレーズ、短歌、自由詩、
イラスト等）



【解題】

直観で書いた創作叙事詩を
省察し、**論理的**に考
え、表現する。

創作叙事詩（学んだ事実＋想像力）＋解題（理由や根拠）の例

中学1年生【鎌倉時代の徳政令の学習後】

【漢字1字による創作叙事詩】

差

【解題】

永仁の徳政令で民衆などが大切にされて
いないことが分かる。御家人が大切に
されていることが分かる。身分の差
や、扱いの差があったのではないかな。

【漢字1字による創作叙事詩】

苦

【解題】

御恩と奉公の関係は、幕府と御家人が互いのことを思
って戦い、領地を保護していた。しかし、幕府側の御
恩の提供が遅れ始め、御家人たちが不満を募らせてい
ると、永仁の徳政令が出て、御家人にとっては一時的
に良い環境がつけられた。しかし、民衆は苦しんでい
った。しかし、分割相続によって御家人の領地が狭く
なってゆく…御家人たちもこの後、苦しんでいったの
ではないかな。

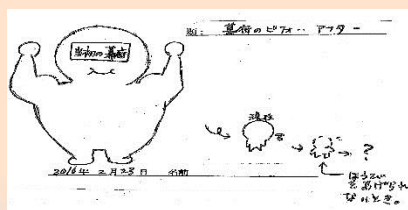
【短歌による創作叙事詩】

幕府へと 御家人忠臣 誓えども
襲ってくるのは 元と反感

【解題】

元の襲来が主な原因となって幕府が衰
えていったから、元と一緒に反感も持っ
てきてしまったのではないかなと思
いました。

【イラストによる創作叙事詩】



【解題】

最初はいろいろなことを取りしきっていた幕
府だが、土地のこととか御家人の信頼の回復な
どで衰退していくであろう幕府の様子

次ページの「ふせふり」（付箋を使ったふりかえり）は、このような「創作叙事詩」と「解題」
を一枚の付箋にまとめた事例です。

「創作叙事詩」と「解題」とは ～東京学芸大学 成田喜一郎氏の研究より～

(laotao.way-nifty.com/islikewater/files/jjojisikaisetu.pdf)

- ・「事実」＋「直観・洞察力・思考力・判断力・表現力に裏打ちされた想像力」→「創作叙事詩」
- ・「創作叙事詩」＋「論理性・実証性に重点を置いた省察・メタ認知」→「解題」

「ふせふり」(付箋を使ったふりかえり)の方法

- ① 授業の最後のまとめとして、一人一枚の付箋を配付し、氏名とその日のテーマに基づいた「創作叙事詩」と「解題」を記入します。(下記のサンプル参照)
- ② 次の時間等に、全員分の付箋をA3用紙に貼って一枚にまとめたものをクラス人数分印刷し、クラスメートの「創作叙事詩」と「解題」を共有します。

ちょっとポイント



- ・付箋は、**枠取り**をさせると印刷したときにも見やすくなります。
- ・「漢字一字」「短歌」「イラスト」など、**好きな形式を選ばせる**こと、「付箋一枚」という**手軽な大きさ**にすることで、児童生徒にとっても取り組みやすくなります。
- ・もちろん、**すべての授業で応用可能**です。



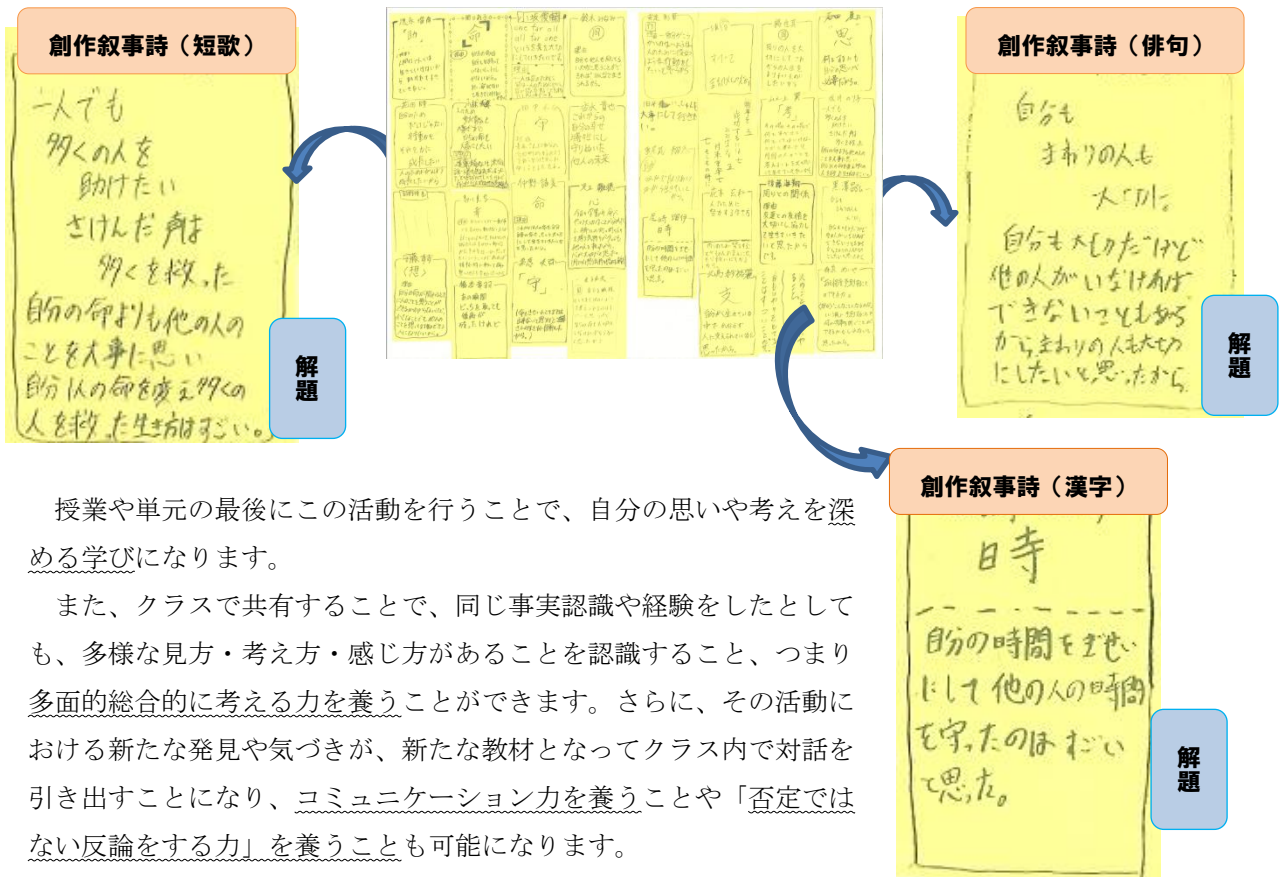
生徒の言葉でまとめをする工夫

例) 中学3年 道徳 よりよく生きる喜び

教材名「天使の声」～東日本大震災に関連した出来事をもとに～

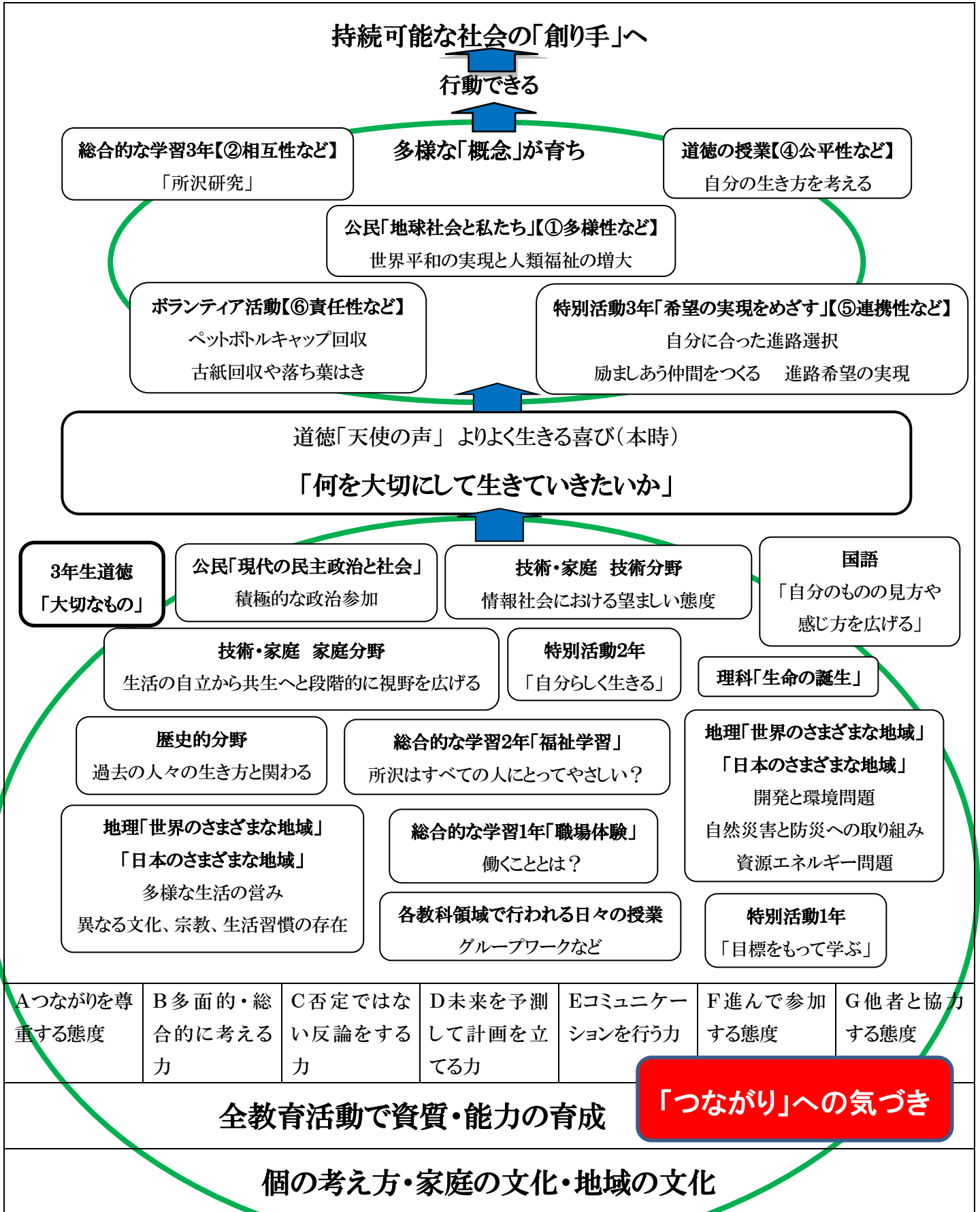
学習のまとめとして「これから(何を)どんな考え方を大切に生きていきたいか。」という発問に対して、生徒の「ふせふり」には、次のようなコメントが書かれており、思考を深めている様子が分かる。

学級全体の「ふせふり」をまとめや事後の活動にいかす



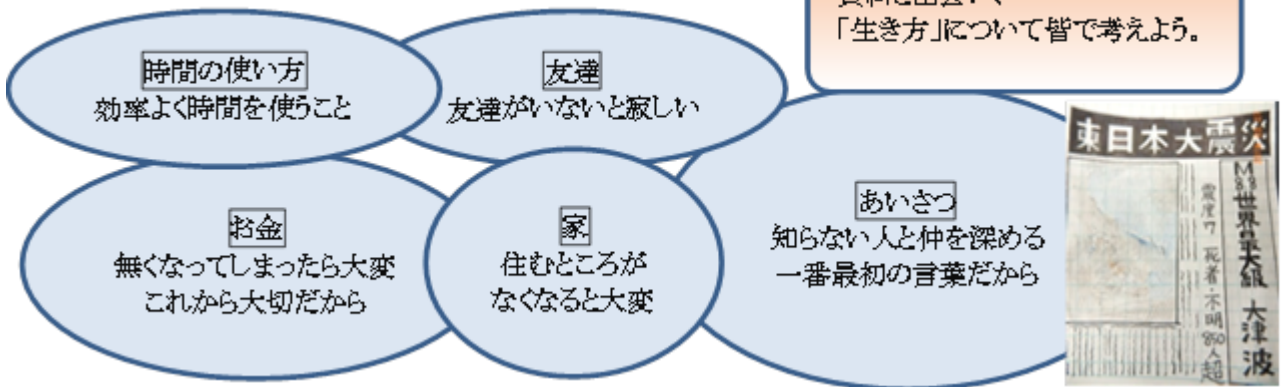
授業や単元の最後にこの活動を行うことで、自分の思いや考えを深める学びになります。

また、クラスで共有することで、同じ事実認識や経験をしたとしても、多様な見方・考え方・感じ方があることを認識すること、つまり多面的総合的に考える力を養うことができます。さらに、その活動における新たな発見や気づきが、新たな教材となってクラス内で対話を引き出すことになり、コミュニケーション力を養うことや「否定ではない反論をする力」を養うことも可能になります。



【図：ESDカリキュラムマップ】

【発問①】「あなたが大切にしていること・ものは何か」



【発問②】「津波が迫る中、遠藤さんはどのような思いで放送をしつづけていたのか」



- 逃げなくちゃ！でも放送もしなくちゃ！
- 自分が大切…みんなも大切…
- 犠牲者は一人も出たくない！ぎりぎりまで！
- 周りの人も大切！
- 自分は大丈夫かもしれないけれど、自分よりも海に近い人もいる…
- とにかく「必死に！」
- 責任感、使命感、義務

※町の人の思いをVTRで、ご両親の思いを言葉で紹介した。

「町の人の思い」
○放送があったからこそ、生き延びることができた。

「ご両親の思い」
○やっぱり、親とすれば助かってほしかった。
○私たちは守られたのかも知れない。

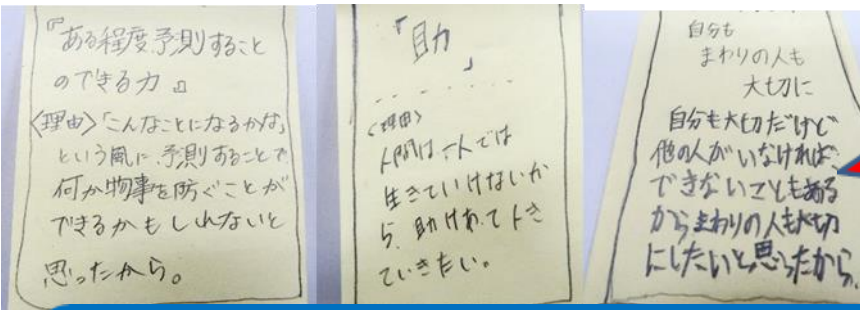
【発問③】「遠藤さんの生き方についてどのように考えますか」

「遠藤さんは、何を大切にしていたのだろう」

- すごい。責任感のある人。
- 自分の命も大切にすべきだった。町の人には遠藤さんのことを大切に思っていたはず。
- 自分も大切だけれど、それ以上に大切なものを自分で守りたいという気持ちがあったのではないかな。

【発問④】「あなたは何を大切に生きていきたいか」

※遠藤さんの生き方を通して、あなたは「どう生きていくのか」と問われていく…



「永続的な問い」
との出会い

「深いふりかえり」
創作叙事詩＋解題

本実践の中で育った生徒の力(抜粋)

- 周りの人を大切に、周りの人とのつながりを大切にしていきたい。…A つながりを尊重する態度
- 人間は一人では生きていけないから、助け合っていきたい。…G 他者と協力する態度
- その場その場で「何をすべきか」を考えていく。…D 未来を予測して計画を立てる力

ESDとしての多様な概念が育ち、行動できる持続可能な社会の「創り手」へ…

コラム『しあわせの王子』 小学校3年生道徳

『しあわせの王子』は…銅像である王子が、貧しい人々の暮らしを見かねて、ツバメに頼んで自分の体の金箔や宝石を運んでもらうお話です。結果として、金箔は剥がれて王子は崩れ落ち、ツバメは南国に飛べずに死んでしまう…悲しいけれど、「人のために尽くす」ことを考えさせるお話です。

ある3年生の教室で、王子やツバメの気持ちを考え合った後、教師が次のような発問をしました。

T：みなさんには、しあわせの王子のように、金箔もルビーもサファイアもありませんか。どうでしょう？

すると、子どもたちは答えました。

C：ぼくたちも、周りの人を幸せにできるものを持っているはず。

C：友達を助けたり、一緒に遊んで悩みを聞いたりすることもルビーの代わりになる。

C：自分の笑顔で、みんなを笑顔にできるんじゃないかな。

など、自分にできる「人のために尽くす」ことを出し合い、大変温かい話し合いが進みました。

このように話し合いが進むのは、担任の先生が、単に「人のために尽くすことが大切だ」という主題だけを指導しようとしていないからです。「そもそも、人のために尽くすとは？幸せとは？」という「永続的な問い」を自らに問い、「それぞれの立場でできることを、少しずつでも分かち合うことが幸せ」「幸せな自分に気づかせ、考えさせたい」という発想をし、それを授業に行かそうと考えたからです。

道徳は、主題が前面に出ると、表面的な話し合いに終始しがちですが、その教材のもつ「永続的な問い」を考え授業を組み立てていくと、話し合いは深まり、児童生徒の心の中に主題がゆっくり浸透していくのかもしれない。



永続的な問い

「ESD、持続可能な未来に向かう学び」のうた

ESD、それは、
時（じ）・空間、人間（じんかん）の「つながり」への気づきをもたらす。
そして、
その「つながり」への気づきの中から
深くて永く続く「問い」が生まれ、
それでも、その「問い」を抱え愛し、応答し続けたいくなる。
また、共感やときに違和感を抱えながら、
それでも、「対話」を重ね、
子どもたちと大人たちの見方や考え方、
そして、感じ方、在り方の広がりや深まりをもたらす。
それは、ときに探究のための「レンズ」になる。
また、未来に向けた「ふりかえり」をうながす「手鏡」となる。
そう、ESDは、持続可能な未来に向かう学びを通して、
わたくしたちは、新たな時（じ）・空間、人間（じんかん）の「つながり」を創る人をめ
ざす。

（作・寺澤満春／成田喜一郎）





持続可能な未来

